

2020 年度実施概要

学校名

松本市立安曇小学校

採択活動名

上高地・梓川から環境について考えよう・行動しよう
 (身近な地域の環境について学習し、つながる地域の環境にも目を向ける)

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 上高地の生き物や植物とふれ合おう	1、2年生	生活科
2. 上高地で環境に関わる仕事をする人から学び、水について調べよう	3、4年生	総合
3. たまり続ける大正池の砂はなんとかならないだろうか	5、6年生	総合

取り組みの概要

学区にある上高地は世界的な景勝地として豊かな自然があり、多くの観光客を魅了している。本校は「上高地学習」として全学年が学年の発達段階に応じて「上高地」にふれ、学び、そして海へのつながりを考える学習を継続している。

【学習内容】**1 上高地の生き物や自然とふれ合おう（1、2年生）**

「川と自然文化研究所」の方をお招きして上高地の動植物の写真を見た子どもたちは「上高地に行きたい」と願うようになった。上高地に足を運び、冷涼な空気や冷たい川の水にふれる一方で、そこにいる生き物や植物とふれ合いながら、人々を魅了する理由を考え始めた。

2 上高地で環境に関わる仕事をする人から学び、水について調べよう（3、4年）

梓川上流探検をした子どもたちは、上高地で働く方の仕事内容を見学することを通して、ここにある豊かな自然は、人の手によって守られていることを実感した。さらに、上高地内にある水を飲み比べることで、地形や地質によって味が違うことを実感した。複雑な地形が上高地の素晴らしい景観につながっていることを知った。

3 たまり続ける大正池の砂はなんとかならないだろうか（5、6年）

地震や豪雨の痕跡、変貌していく湿原の様子を見て、上高地の素晴らしい景観は、長い間の大地動態と風雨による浸食からできあがってきたことを実感した子どもたち。一方で大正池を利用する電力会社が、ここに流れ込む膨大な土砂を浚渫し、運び出しているのだが活用方法がなく行き場を失っている現状に直面した。活用方法を探る上で、ここを訪れる多くの観光客にこの現状を伝えた子どもたちは、土砂の流出が海にまで影響していることを学んだ。未来に向けてどうしていくか、問題解決は今後も続く。

学習内容報告書では6年生の取り組みを抽出して論述している。

【来年度の構想】

低学年は上高地の自然に親しむ、中学年はそこにいる自然と人から視点を広げ、高学年では海とのつながりを明確にした学習を展開していきたい。

災害や海とのつながりをより明確にしていくために「砂防」の視点から学習を深める。



活動中の写真

上高地の植物にふれる（1、2年生）



上高地で働く方の様子を見学（3、4年）



行き場を失った大正池の土砂置き場に立つ
（5、6年生）